

戦争をしない国でいるために

読谷中学校二年 吉田 流星

戦後七十年の今年に戦争を知らない僕達

でさえ戦争について考える機会が多いです。

戦争という言葉の辞典で調べてみると意

味は、国と国との兵力での争いで、人々が

死活をかけるほどにしてとりくむ社会的問

題とありました。死活と言う言葉の意味は

生きるか死ぬかという意味です。

なぜそんなおそろしい戦争はおきてしま

うのかと疑問に思い考えをみました。

自なりに考えてみると自分達の利益を優

先して相手のことをまったく考えないから

だという結論になりました。

僕がこの意見にたどりついた理由は、中学

生の間でも同じようなことを目にするから

です。自分のストレスや、自分さえ良ければ

いいからといて、相手をいじめたり、相手

にもんくをいったり、ちよっかいを出してい

る人を時折り見るからです。一方的にいじ



められていいるのは、第三者の立場から見ている。心も心が傷ついてしまっています。これは、中学生の小さな社会でおきていることですが、大人社会の政治的な現実でも、似たようなことが起きていいるのです。大国が小国に介入し、弱い人々が難民になっっているのを見るとき胸が痛みます。戦争や紛争はとも残虐で、ひどいもの、むごたらしくて、非人間的なものだと思えます。

でも、戦争がない時代に、日本という戦争を完全に放棄した国に生まれ、戦争を体験したことがない僕には、実際のところはわかりませんが、ありません。

ですがそれはとても幸運なことなので、世界のあちらこちらでは生まれた時から戦争状態だったりして、戦争しか知らない子供達が数多く存在しているのです。その戦争しか知らない子供達は、とてもかわいそうだと思います。憎しみや苦しみの恨みしか生まないと思うからです。



憎しみや恨みしか生まない環境で育つた子供たちは、憎しみや恨みを学習し、平和や相手を受け入れることを学ばないで大人になります。そうなることもまた同じことをくり返しました。同じことをくり返して、もこの悲しい戦争や憎しみの連鎖は終わらないと思います。

そう考えると、逆に平和しか知らない僕たちがどんなに恵まれているかが痛いほど身にしみてわかります。恵まれ幸せな僕たちは、その分、社会を平和に保つ責任もあるのだと思います。ようになりました。

平和への道は、まず周りの友達を大切にしていくなことから始めるべきです。具体的に言えば、暴力や武力で相手をおさえつけたりせず、なるべく話し合いで解決したり、自分とは違う考えを尊重できるようになることです。また、困っている人がいたら積極的に助け、いくのにも、戦争を遠ざける方法の一つだと思っうのです。



としてももう一つ、自分達と違う考え方や文  
 化や行動の人々を拒絶しない事だと思えます。  
 僕達の住む世界には、たくさん様々な国  
 や地域があつて、一つ一つに色々な文化や伝  
 統があり、少しずつみんな違つているのです。  
 文化が違ふからとか、考え方が違つたり言葉  
 が通じないからと言つて、相手をバカにした  
 り、差別したりすると、すぐ争いがおきてし  
 まうでしよう。相手の無理解や無知が、でき  
 るだけないようにしていき、どんな相手とも  
 分かりあえるように努力を続けていきたいと  
 思います。  
 七十年間戦争をしなかつたこの国が、これ  
 からも戦争をしない国であるために、僕達が  
 平和を守り続けていこうと思えます。